

中川村新たな学校づくりプロジェクト 地区懇談会 語り合いの時間で出された意見等

- ・このプロジェクトが先生方の重荷にならないようにしてほしい。
- ・地域も学校づくりに関わってほしい。
- ・子どものためにとやっている大人の真意を子どもがわからないという結果にならないように、子どもの声を聞いてほしい。
- ・親としては人数の多い学校の方が良いと思う。
- ・学校を一校にした場合、さびれる地域が出ないような取組を合わせて考えていく必要がある。
- ・体験学習を村の人を巻き込んでやっていく場をもっと増やしていけると良い。
- ・先進事例や世界の様子も含め、学ぶ機会を設けてほしい。
- ・宿題のない学校が良い。
- ・村民も出入りできる場であると良い。例えば村の図書館と学校の図書館が一緒だとか、学校のように学校でない場のような。
- ・保育園はいろいろな機関と一緒にすることも良い。
- ・プロジェクトは良いと思う。
- ・早く一貫型にして、学校の位置を決めてほしい。
- ・保育園まで一緒にすることはない。
- ・それぞれの立場でやらなければいけないことを理解してほしい。
- ・3分の1が維持を支持していたということだが、そうした人たちの意見をしっかりと聞き取り、理解してもらった上で進めることが大事。
- ・義務教育学校になるのは良いことだが、そこまでになるのは大変ではないか。
- ・統合すれば村にとって経済的にも節約できるので良いと思うが、どこに建てるのか難しいと思う。
- ・場所の話が出たが、早く決めた方が良い。
- ・統合は合理的、大賛成。統合後の校舎の使い道をどうするのか。残った校舎のことも一緒に考えてほしい。
- ・新しい学校ができて「さあ新しい教育をやろう」では無理。早くから一緒にやらないと無理。
- ・地域の人をみつけて学校につなぐ接着剤のような人の存在が大事。
- ・東西の分け目、皆潜在的には持っているのではないか。
- ・学校の先生たちが、よっぽどやっていかないとまうまい。それを変えていくのは地域の力である。
- ・学校から遠くなる地区、元気がなくなることをないように対策をしていくことが必要。
- ・地域との関わり、新しい学校ができてからスタートするのではなく、今からできることを同時にやる。
- ・村の方でももっと都市計画も検討しなくてはならないのでは。全体像を検討する機関もあって良いのではないか。
- ・義務教育学校になり9年生が1年生のモデルになれると、道を踏み外すこともないのではないか。
- ・まずは地域の方々に理解していただき、同じ方向を向いて進んでいけると良い。
- ・もっと村民に関心を持ってもらいたい。変わることを恐れてはいけない。新しい学校へ向けて挑戦していきたい。
- ・義務教育学校がどういうものかを知ったうえで進めていければ。地域で育つ学校について具体的にどうしていくか、皆で関わっていくことを今から考えていく必要がある。
- ・根本的に義務教育学校を作ることはもう決定しているのか。⇒決定しているわけではない。教育委員会の考え方として説明している。異を唱えるご意見があれば考えていきたい。
- ・何のために一貫校にするのか？デメリットもあると思うので示してほしい。どういう子を育てるのか

考えていくことが大事。

- ・ 気になっていることは全部吐き出した方がよい。祖父母にも知ってもらいたい。
- ・ 村の目指す子ども像を出し合って、実現するためにはどうするかというやり方がよい。子どもも大人（地域の方だけでなく先生も）も成長する学校。しかし、先生がその仕組みに対応できなければ、またワクワクする気持ちにならなければ意味がない。子どもたちに還元されない。
- ・ どんな先生が来るかで変わる。新たな学校の立ち上げの際には村民みんなで校長先生を選べれば。
- ・ 新たな学校にするなら、今からできることはやっていかないと。
- ・ もう少し若い世代の親御さんたちのなかで説明が必要ではないか。子を育てる世代の意見が大事。
- ・ 一つになることへの反対はそんなにないとおもう。ただどうやって一つにするのが大事。
- ・ 広報でしか検討委員会の様子がわからない。懇談会では学校の姿が説明され、それについての議論になっている。もう少し方向性について議論する場が欲しかった。
- ・ 職場が小学校の近く。子供の声が聞こえなくなるのはさみしい。
- ・ 誰のための学校なのか、地域のための学校ではないと思う。地域がさびれるとかそういった感覚もわかるが、村の子どもたちにとって必要だから義務教育学校をという一つの選択だと思う。そこは絶対に忘れてはいけないと。
- ・ 東西中学校の統合の時に準備の段階で交流があった。今ここでやっていることとはまた違うところで何らかの問題が出てくると思う。
- ・ 保育園の年長は何でもできるのに、小学校一年生になって赤ちゃん扱いになってしまう。そこを取り扱った方がよいのではないか。
- ・ 高校ショックのようなものがあつたほうが逆に強くなると思うが。成長の機会ではないか。
- ・ しっかりと根が育っている子は強くなれるが、今はそうでない子が多い。それが育つのが3歳までと言われている。園舎を一緒にするのは違う話だと思うが、村として教育方針を一つにすることが重要と考える。保育園までの間に育った根を小、中とつなげていけるように。
- ・ 6年生は小学校の最高学年だが、一貫校ではまだ上の学年があり最高学年ではなくなる。その辺の気持ちの持ち方とかはどうなのか確認してもらいたい。
- ・ オール中川という話もあるが、これからは高齢化社会という中で子供を育てるということ、子どもと高齢者の触れ合いを大事にしていきたい。
- ・ 茨城県つくば市はベッドタウンで、児童生徒数 1,000 人を超える義務教育学校がある。人数が多くても、少なくとも、そういった流れがある。
- ・ 校舎の老朽化により新しい学校にするのか。待たなしの状況なのか。⇒そういうわけではない。子どもたちの現状を見たときに、小さい学習グループをもう少し大きくとか、異年齢とか、それをまとめて義務教育学校という発想とっている。
- ・ 義務教育学校の教育カリキュラムがとても充実して見えるが、教職員の負担が増えないか心配、残業等も。その辺を検討しながら進めてほしい。
- ・ 全国的にまだ例が少ない、先生たちの経験もまだない、仕組みについて行けない先生もあると思う。それがデメリットになるかも。
- ・ 分校、保育園がなくなった。分校がなくなった時には、やはりさみしく感じた。保育園がなくなった時、お母さん達は通園の距離が伸びる等話題にあつた。親世代は母校がなくなるといった思いがあるが、子ども達は結構柔軟にやっていくのではないか。
- ・ あまりに人数が少なくなって、先生も少ない、予算も付かないでは良い教育にはならない。やりたいことがあつても専門の先生（美術など）がいないとか。
- ・ 分校6年生の時、中学3年生の時に統合があつた。自分たちの時はめまぐるしくて精神的に苦痛だった。子ども達のことを一番に考えてケアしてあげてほしい。

- ・ かつら保育園が無くなった時、そこまで地域の生活は変わらなかった気がする。
- ・ さみしい思いがあった。だんだん人口が減ってきている。学校や病院が近い場所に若い人が集中する。公共施設が離ればますます過疎化が進む。住む場所によってそういった環境が変わらないようにスクールバスを充実させる等お願いしたい。
- ・ 子ども第一で考えていてもらいたい。
- ・ 学びたいことを学べる、学べる環境が変わっていくのはうらやましく感じる。そういう環境が整ったら恵まれていると思う。
- ・ 縦のつながりは大事だと思う。保育園時代からそれはあって、今は近くに学校があるから遊びにも行けるが、学校がなくなってしまうとそれができなくなってしまう。
- ・ 葛島は色々なくなっているから公共施設がない。道路整備等もお金が見つからない。遠くの地区の道路環境整備などもしっかりやってほしい。
- ・ 一緒になったときに子どもたちの精神面が心配。西と東の共通した部分は何かよく考えてもらいたい。ギャップが少なくなるように。スムーズに移行できるように考えていてもらえたら。



懇談会の様子



- ・ 昔は片桐小と片桐中が廊下でつながっていた。小学生、中学生の姿がお互いによく見え、憧れを抱いたりしながら生活していた。青年学級というのか、学生だけではなく地域の一般の住民も学校に来ていた。
- ・ 東京出身で、中川に住んで10年位。東京は人口密度がすごく近所の人を知らないが、こちらは兄弟関係から全て知られている。学校が9年になると、良いことだけではなく、悪いことがあった場合も知られやすい。人間関係等が良いように作用されるばかりではない。中学校に入るタイミングでリセットされる感覚があるが、そのタイミングが無くなる。心配なこともある。
- ・ リセットされるタイミングが無くなるのは一番の不安だと思う。なだらかに9年間なのか、どこかでリセットのタイミングを作るのが良いのか、そこは議論するところだと思う。

- ・良い部分と悪い部分があると思うが、統合することは良いと思う。もまれる方が強くなると思う。社会に出たときに差が出てしまう気がする。世界的に見て日本は負け組（弱い）と感じている。どうやったら世界で通用するか。
- ・地域の方が学校に入って来られれば先生と生徒だけの関係ではなく、また違った関わりが生まれる。
- ・中川の子は素直でやさしくてもまれていない。高校に上がるといろいろな刺激が一度に来て、はじける子と耐えられなくてドロップアウトする子と。9年間の間でどこまでいろいろなことを体験させてあげられるか。
- ・場所のこと気になるが、遠くなると体力的な面もあるが、先生の目の届かないところで子ども同士の時間が長くなると心配な面もある。登下校の時に子ども間で色々問題もある。
- ・場所について、中学校が中心というイメージがあるが、一時間以上歩くのは良くないと思う。
- ・村には平坦な場所が少ないから限られた場所になると思う。
- ・どの子にも必ず居場所がある、そういう学校を目指していかなければと感じた。
- ・統合は賛成。通学方法を充実させてほしい。
- ・統合を待たずに、遠い子達の下校手段が何とかならないかと思っている。
- ・子どもの体力低下が心配。小中学生が一緒に歩くことで体力がつくこともよいことでは。
- ・通学方法は今に合ったやり方で考えてほしい。防犯灯の設置も考えてほしい。
- ・校舎は老朽化もあるが、建設最初のチェックが必要である。
- ・中学校では、村が目指す教育の姿にある「自分で考え、判断し、行動する」ことを目指して、今年フリーラーニングを行っている。地域の方がサポーターで入りつなげてもらえるとよい。
- ・北海道中川町では、近い子も遠い子も申請すれば自転車通学がOKということだった。
- ・フリーラーニングのサポーターをやっている。子ども達の成長をサポートするという感じ。サポーターが足りていない。⇒地域の人をつなぐ接着剤のような方が必要
- ・今は二人暮らし。プロジェクトにどう関わられるかを知りたくて来た。
- ・義務教育学校は個人としては悪くないと思った。義務教育学校の学力はどうか。⇒信濃小中学校では学力が上がったと聞いている。1校のため中学校段階の先生が小学校段階に教科を教えに入るなどの対応ができることもつながっていると思われる。
- ・地域の人の後押しが必要。大勢の人が学校に関わってほしい。
- ・いかに不登校の子を減らすか、このことが学校の一番の問題点だと思っている。
- ・学校がバスを持っているとよいのではないか。
- ・地域から思うように支援が得られないのではないかと心配する。
- ・手を挙げてくださいと言っても手を挙げないが、直接頼むと「よし」となる。
- ・村社会にはそういうことがある。
- ・先生方の働き方が問題になっている。先生方が厳しい労働環境にいと、子どももよい教育を受けられない状況になってしまう。理想的な考えを入れ過ぎてしまうのはどうか。理想的なところ、よいところばかりが出されると親は期待してしまい大変ではないか。
- ・義務教育学校がスタートするときの先生方は、いろんなところが見えない状態なので大変。あまり理想的なことを盛り込んでいくのではなく、しばって、中川村のよさを盛り込んでいくということが、先生方の負担にならないよう無理なくできるのではないか。
- ・場所については、現中学校のところかと思っているのではないか。牧ヶ原に土地を持っている人たちは自分のところに持ってきてほしいと思っている。
- ・転出入に影響はないか。⇒義務教育学校という環境に慣れないことはあるかもしれないが、学習面では大きく影響はないと思う。
- ・一貫校で校長が1人になることは良いと思うが校長も変わる。それでうまくやっていけるのか。

- ・案として教育委員会と学校の持つ事務配分を考え直すようにしたら働きやすいのではないか。
- ・小中併設校で学んだ。全校で120人くらい。校長1人、教頭2人。小学校のとき、専門科目は中学校の先生が教えてくれた。小中の棟をつなぐところが図書館や保健室で、給食もランチルームで一緒に食べた。デメリットはあまりなかったように感じる。良い先生を引っ張ってくる校長先生の力というかスカウト力が重要だった。
- ・義務教育学校では、中学校の牧ヶ原祭や小学校の茶摘み等行事がどうなるのか心配。
- ・中学生はなかなかこの場(懇談会)にはきづらい。学校でこういう場があるといい。
- ・子どもたちの発言を重視していけば、校舎など建物も。大人はその土台だけ作ってあげられれば。
- ・よその中学生と話をする機会があつて「学校楽しい?」と聞くと、疲れている子が多いと感じる。
- ・3つのアプローチの「オールなかかわ」、どういうものが仕組みになるのか想像がつかない。⇒例えば、フリーラーニング。子どもがテーマを決め、地域の方に聞く、教えてもらう。地域の得意なことと子供の求めることがうまくつながれば。教育が先生と生徒だけで完結ではなく、地域の皆さんにも入ってもらう。
- ・一定数は学校になじめない子が出てくる。そこを地域でどうやってサポートしていけるか、居場所をつくっていけるかが大事だと思う。
- ・一貫校、子どもは増えるが教職員の人数は少なくなり先生にも負担がという話もある。精神的につらくなるところのフォローを。
- ・何が大事なのか、どのように生きていくのかを考えられる学校になれば。
- ・学校のカリキュラム、それと地域の力を合わせることで、知恵の出どころ。アイデンティティを育てるといふか、その地域に生まれればその地域で学べることがある。
- ・一貫校、3-3-3制ではまずいのか。
- ・学校と地域の連携は良いことだが、万が一の時のために子どもを守ることも考えていかなければ。
- ・高校受験があるので、学習面の充実をお願いしたい。勉強が全てとはいわないが社会に出て困らないように。義務教育なので学校規模に関係なく同じように勉強を教えてもらえる学校(一貫校になったメリットとして)を実現してほしい。
- ・義務教育学校にした場合、対応力が伸びればいいのではと思っている。県内では信濃町が一番良いのか。⇒10年前からやっているということと、義務教育学校にしなければよかったという否定的な意見が今もないということが参考になる。今の中川村で持てない教育環境を義務教育学校でできればよい。
- ・児童クラブはこれからどうあったら良いと思うか。⇒個人的には統合できるだけ早く。今、中学生は児童クラブに来られない、心配な子もいる。今の中学生、充実しているが大変な環境だとも思う。自分たちが話し相手になることで、なにか支えになれば、関わりが持てればと思う。新しい学校の近くに児童クラブもできれば、そして中学生も利用できれば良い。柔軟な考え方で。
- ・親戚の子が中学校に入って、人間関係で悩んでいる様子。クラス、学年、部活、家庭以外で、義務教育学校でたくさんの居場所の中から自分に合うものが見つかればよい。
- ・村外に出て行っても村に帰ってきたいと思える土台を作りたい。
- ・小学校5年生くらいから考え方変わった気がする。そのときに自分のやりたいことを延ばせる学校があれば。
- ・村や世の中の情勢が変わるのが早い。一貫校の開始がもっと早められないか。
- ・教育委員会事務局が現状の人員のまま通常の仕事をしながら新たな学校づくりをやっていくことは厳しい。職員の増員を強く希望したい。
- ・オール中川とあるのでぜひ、連携だとか保育園の方も考えてもらいたい。9年間の前に3年間もあるということ。
- ・これから委員会ができるようだが、地元の学校をよく見てほしい。外ばかり見にいかにないように。委員

の充て職は、役職を退いても引き続きできるような体制をお願いしたい。

- ・場所は早めに示した方が良い。
- ・「子どもの意見を」というのがあったが、もう少し具体的になったところで意見を聞くのが良いと感じる。時期とタイミングを検討してもらいたい。
- ・これから子どもも減るが働く世代も減っていく。村の職員や先生たちも。地域の方の理解や協力が必要。母校がどうなるのか気になる人もいる。今の跡地をどうするのかどうすることも検討していかなければ。
- ・不登校を減らすという表現が窮屈になる。先生方にも負担になる。
- ・いろんな居場所も大事。でも学校が一番行きたくてしょうがないようになるといい。そのために大人は何をすればいいか。
- ・不登校の親の人は、そのことを知られたくない。子どもも親も悩んでいる。それが現実。脱皮していかない。中間教室にも足を出せない。誰かに接点を持つことが必要。
- ・コミュニティースクールのコーディネーターの存在が周知されてない。今芽生えているものを活かしていきたい。フリーランニングももっと宣伝を。組織的にならないか。今やっていることが点で終わってしまっている。
- ・学校のためのお手伝いという意識を変えたい。参加したくなるような内容で声をかける。みんなで学校を作ろうという意識を作っていく。
- ・子どもたちも思っていることはあり、子ども同士では話す。子どもたちが意見を発する場を。
- ・大人が変わるきっかけになる何かを作ることが必要。
- ・カリキュラムは学校に依存するが、教育委員会も一緒に作る。地域を題材にして学ぶ。
- ・施設一体型はいやだとか意見が出たときに後戻りはできるのか。⇒基本的にはそれで説明をしてきているが、全村で大きな声があがってくれば検討していくこともある。
- ・子どもにとって自然は大人の目を気にせず思い切り遊べること。都会にはない良さをもっと生かしていくことが大事。安定した人間関係、できる自分を演じなければ行けなくなる。統合の唯一の利点はクラス替えができること。互いの違いを尊重し合って支え合えることが大事。能力主義的な見方は良くない。
- ・素直さを言われ続けることに違和感を感じている。子どもたちもずっと聞いてきている、そうしなきゃいけないと感じているのではないか。
- ・10年前に移住した。同調圧力を感じた。うちは野生児みたいな子どもだが、周りのみんなはそれを止めようとする。子どもが大人の顔色を見ているような感じがする。子どもの主体性をという前に大人が変わらないといけない。
- ・大人の社会が子どもの社会に入ってしまった。
- ・教育や学校が変わるということは地域も変わっていくということにつながる。
- ・今は、自分で考える機会を潰している。教育には目標があってやっているが、子どもはひとり一人感じ方が違う、学ぶことが違う。堅い教育ではなくて、柔らかい教育を。
- ・村の学校のことを高校生にも聞いてもよいのでは。
- ・人間関係の硬直化、一回引っかかるとずっと同じよりはどこかで変化がある方が良い。
- ・学校を統合することで予算的に余裕ができるなら、その分を他事業で使うのではなく、教育のことに使ってほしい。
- ・バス通学となった場合に、バスで家の前まで送迎してしまうと通学の良さがなくなる（登下校時の友達との様々な体験や道草など）。歩くことが確保できるようにしてほしい。
- ・義務教育学校となった場合に、細かい成果や調査を学校に求めるのはやめてほしい。3年間くらいは様子をみて続けさせてほしい。細かい評価ではなく楽しかったで良い。

- ・教育の場で認められなかった方が社会にはたくさんいる。自分で生きていく場所を見つけられるように、どの子にも自分を見いだすチャンスを、たくさんのことを経験させてあげたい。
- ・大阪生まれで、子どもが多かった。こちらは手厚くやってもらえるのがありがたい。義務教育学校になったときにももっと手厚くなれば。全学年でクラス替えできればよい。先生も替わる、頭のリセットができるタイミング必要。
- ・子どもを通して教育委員会の近さを感じている。希望としては、クラス替えと担任の先生を2年で替えてほしい。担任も生徒に対し、この生徒はこういう性格だといった固定観念がどうしてもでてきてしまうと思う。人間関係もある。
- ・昔ほど野に人がいない。家の近くに堤があるが、もし事故があれば責任はこちらに来る。声かけも難しくなっている、気安く声をかけてはいけない時代になっている。移住した方が多いが、地区に入らない人が多い。だから地区全体で子どもを見るとかそういう感覚がないし、どこの家にどんな子どもがいるかということがほとんど分からない。
- ・昔はたくさん遊んだ、危ないところでも。事故があったときには管理者に責任がいつてしまう。規制をしなければいけなくなる。遊ぶ場所なくなる。



懇談会の様子



ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。